

私たちにとっての食事

<今年もよろしくお願いたします>

本年もよろしくお願いたします。新しい年を、皆様どのように迎えられたでしょうか。気持ちを新たに新しい年を過ごしてまいりたいと思います。

1月8日に3学期始業式が行われました。4年生の2名の代表児童が抱負を述べてくれました。Aさんは「①本をたくさん読む、②実験を安全にしっかり行う」について。Bさんは「①委員会の仕事を頑張り、学校を笑顔に、②廊下を走らない」について、それぞれ話をしてくれました。講話では、①6年生が安心して卒業できるようにする ②三水小学校の1年目を無事に終わらせる ③「ありがとう」の気持ちをもてるようにする の3つを子どもたちに伝えました。3学期はまとめの学期、活躍を期待しています。



<大変ご迷惑をおかけしました>

去る1月11日（金）から23日（水）まで、給食センターの給湯システムの故障により、紙皿で食事をしたり、お弁当を用意していただいたりと、子どもたちにもご家庭にもご迷惑をおかけしました。誠に申し訳ありませんでした。時間はかかりましたが、何とか元通りの生活を送ることができるようになりました。昨日24日は、子どもたちの笑顔がたくさん見られ、楽しい給食のひとつとなりました。ただインフルエンザの予防のため、いくつかのクラスは教室で食べていたこともあり、ランチルームは閑散としておりました。早く元気になってにぎやかな給食の時間を過ごしたいですね。

<「給食」と「おべんとう」について考えてみました>

校長という立場にいますと、ゆっくり子どもたちと話をする機会がなかなかもてません。またどんな考えをもっているのかも、わずかな情報しかありません。少しでも子どもたちと触れ合う機会がもてるように、また自分の考えをまとめ文章に書くという活動を通して、「考える」「表現する」習慣が少しでも身につけることができるようにと考え、5・6年生を対象に「7分間 thinking」という企画を実施してみました。これはあるテーマについて7分間で自分の考えをまとめるものです。第1回のテーマは、「『給食』と『おべんとう』について考えよう」でした。資料は以下の通りです。

- Aさん：私は給食がいいと思います。理由は栄養のバランスを考えて作っているし、無農薬の野菜を使ってるので、安全だからです。
- Bくん：ぼくはおべんとうの方がいいと思います。理由は、家の人が気持ちをこめて作ってくれるからです。だから残すとか捨てるとか、簡単にできないはず。作ってくれた人のことを今までよりもよく考えるようになると思うからです。
- Cくん：作ってくれた人のことを考えるなら、給食でもできると思います。ぼくの家はお父さんもお母さんも働いているので、朝がととても忙しいです。毎日おべんとうを作るのはけっこう大変なんです。だから給食がいいと思います。
- Dさん：私は、おべんとうがいいと思っています。おべんとうを持つてくるのは行事があるときですけど、準備や片付けがかんたんでした。給食当番もやらなくていいです。それにおべんとうだと休み時間がたくさんできると思います。だからおべんとうがいいと思います。

ここで、あなたに意見を言う順番がまわってきました。自分で発言するつもりで、あなたの考えを理由を入れて書いてみてください。

子どもたちの反応は様々でした。でもいろいろな面から深く考えている子どもたちも多くいて、興味深く読ませてもらいました。特徴的な意見を以下に紹介します。

給食派

- ・家の人は朝ご飯とお弁当を作っていると大変だと思うし、給食当番は勉強の一つだと思うから、お弁当は特別な時だけでいいと思います。(6年)
- ・自分たちで給食を用意したり片付けたりすることも大切だと思うからです。みんなで準備することで協力する力も成長できるからです。(6年)
- ・給食を作る仕事で家庭を補っている人がいるからです。あと給食を盛り付けることも学習しなければならないからです。(6年)
- ・作ってくれた人のことを考えるためには、給食を作っている人と交流したりして、僕たちと給食の距離を縮めていけばいいと思います。準備や片付けは将来絶対やると思うので、今のうちから練習した方がいいと思います。(6年)
- ・親に苦勞をかけたくないからです。ご飯を作ったり私たちが育てるのも大変だと思います。仕事もして、もらったお金で食べさせてもらったりしているので、親に苦勞をかけたくないからです。(6年)
- ・それぞれの物(メニュー)ではなく、みんな同じだと差別もなくいいからです。(6年)
- ・僕のお母さんは仕事が遅いから、寝る時間が少ないです。しかも栄養のバランスがいいので、給食がいいと思います。(5年)
- ・無農薬でバランスもいいし安全だし、とってもヘルシーだからです。それに給食センターの人が心をこめて作っているからです。(5年)
- ・お弁当だと毎日持ってこなきゃいけないし、ごはんなどがさめてしまうので。(5年)
- ・給食は栄養バランスも考えられ、いつも朝早く起きて作る弁当の手間をはぶけるからです。それに、同じ物を食べていると、話の話題が作りやすく、友だちともっと仲良くなれるからです。(6年)
- ・私の家も両方働いていて、小学校に私も入れて3人いるので、お母さんが「大変だ」と言ってるのを聞いたことがあります。(6年)
- ・給食は無農薬だからです。他には給食レターのクイズも頭を使えるし、初めて知ることもあるからです。あと給食当番でみんなで協力してやる所を、僕はためになると思います。(6年)
- ・冬になると気温がすごく低くなり、体がひえてしまいます。でも給食では温かいものをお弁当と違って食べれるので、いいと思いました。(6年)
- ・お父さんもお母さんも両方働いているので、お弁当を作っている時間があまりないです。お母さんが帰ってきて少し準備をするとしても仕事で疲れているので給食がいいと思います。(6年)

おべんとう派

- ・朝早くから起きてお弁当を作ればいい。そうしたら早く起きる習慣が身につきます。Dさんと一緒に、休み時間が増えるからいいです。(6年)
- ・作る時、自分でどの栄養を入れたらいいかが身につかないし、お弁当だと自分の好きな量も決められるし、自分で作れるし、将来作るようになったら自分で楽に作れるからです。好きな日に好きな物を一週間ぐらいに1回入っていると、とても楽しみにお弁当を食べられるからです。(6年)
- ・自分でバランスのいい食事を考えて作れば、親も大変ではないし、自分で考えて作ることを毎日すると、栄養のことも分かっている経験になると思うからです。(6年)
- ・お弁当は、自分で食べる量を調整できるからです。しかも帰ったら自分で片付けられるからです。(5年)
- ・お弁当は自分で作ってつめて片付ければ、親の負担は少ないから、お弁当がいいと思います。(5年)
- ・家の人が気持ちをこめて作ってくれるし、気持ちがこもっていると、とてもおいしく感じたり、作った人のことを思い出しながら食べれるからです。(5年)
- ・お弁当は自分で作れるし、5・6年生は主菜、副菜などの割合を習ったから、栄養のバランスを考えて作れると思います。(5年)
- ・将来に向けて、自分でごはんを作ることが家でできるからです。最近ゲームなどのメディアが長いので、お弁当を作ることで減らせると思うからです。それに自分でお弁当を作ることで、お弁当の最後まで自分で責任をもってやる事ができるからです。(5年)
- ・自分で作ったり、おうちの方々と一緒に作れるからです。それに食べたお弁当箱を自分で洗うということも身につくと思うからです。自分で作ると「これはああやって作るんだ！」など、作り方を覚えたりして、あとで家族の方に作ってあげられるからです。(5年)
- ・これから高校、大学になると、自分で作らなくちゃいけないから、今からいろんなアイデアを考えて作れば、将来バランスがよくて栄養の取れるお弁当を作ることができると思うからです。(6年)
- ・作ってくれた人に感謝できるようになるし、自分が食事ができるのは、周りの人が頑張ってくれているからだということを、ちゃんと考えることができると思うからです。(6年)

どちらでも派

- ・給食は栄養のバランスを考えているからです。また、お弁当は相手を思うことができるからです。毎日お弁当を作るのが大変な人もいます。だからお昼は給食にして、週に一度お弁当にするのはどうでしょうか。（5年）
- ・週に2回がお弁当で、3回が給食のようにすればいいと思います。家の人が気持ちを込めて作ってくれていて、片付けなどもすぐにできるのでいいと思います。だけど毎日がお弁当だったら親も忙しくなるので、給食もいいと思います。栄養のバランスがいいし、汁を盛ったりするのでその働く力がつくと思います。私は以前外国の学校に通っていたけど、給食はなく、お弁当か食堂で買うか、家に帰っています。私はどちらでもいいと思います（5年）
- ・地産地消ができるなら、何でもいいからです。じゃないと、地域の人がせっかく作っているのに食べないとかわいそうだからです。（5年）
- ・お弁当の日などをつくって、お弁当に特別感を出すことで楽しく作り、食べることができます。給食では普段食べたことがない物も食べられるからです。このように両方にすることで、お弁当も給食も好きになれると思うからです。（6年）



子どもたちは、実に様々な視点から給食やお弁当について考えていることが分かりました。資料にあった「栄養バランス」「安心安全」「親の負担」「時間の余裕」「給食当番の必要性」等に加え、以下のような意見がありました。

給食派

- 「給食当番が勉強の一つである」「協力する力が成長できる」
- 「給食を作ることで家庭を支えている人がいる」
- 「僕たちと給食の距離を縮めていけばいい」
- 「親に苦勞をかけたくない」「温かいものを食べられる」 など

お弁当派

- 「早く起きる習慣が身につく」「将来作るようになった時に楽だ」
- 「栄養のことが分かっていい経験になる」「主菜、副菜を習った」
- 「自分で作って片付ければ親の負担は少ない」
- 「メディアの時間を減らせる。責任がもてる」
- 「家の人と一緒に作ることができる。家族に作ってあげられる」
- 「周りに感謝できるようになる」 など

どちらでも派

- 「週に1回お弁当に」「週2回はお弁当、3回を給食に」
- 「地産地消ができるならどちらでもいい」
- 「特別感を出すこと、普段食べられないものが食べられることで、両方とも好きになれる」 など

たくさん意見があったから、少なかったから、ということではなく、いかに自分の考えをもち、それをまとめ、表現できたかが大切です。給食センターでのトラブルで、紙皿を使って食べたり、お弁当を持ってくるようになったりして、給食やお弁当に対して意識が高まった時期と重なったこともあったでしょうか。これだけ様々な意見があると、ディベートを行うこともできそうですね。

私たちは普段、当たり前のように食事をしていますが、よく考えてみると食べ物が口に入るまでに実に多くの過程を経ていることが分かります。また、給食やお弁当に関係している人々やものごとへの価値の大切さを再確認できたことは、とても意義のあることだったと思います。私たちが生きていくためにどうしても必要な食事、今回子どもたちのおかげで、身近な給食やお弁当について考えることができました。

＜インフルエンザの予防について＞

ニュース等の報道でご存じかと思いますが、インフルエンザが猛威を振るっています。罹患後に事故に遭うこともあり、深刻な問題として取り上げられています。保健室や担任からも通信等を通じて連絡が出ていますが、体調がすぐれない時、微熱がある時は決して無理をしないようにしてください。「このくらいの熱なら大丈夫」といった判断にならぬよう、慎重に対応をお願いいたします。学校では、

- 1 マスク着用、手洗いとうがいの徹底
- 2 水筒の持参（水分補給、うがい）
- 3 休み時間の空気入れ替え
- 4 給食は、状況に応じてランチルームや教室を使用

などの対応をしています。家庭でも「登校前の体調チェック」「手洗いとうがいの徹底」「必要以外の外出を避ける」「規則正しい生活を心がける」等、対応をお願いいたします。